

「在宅就労セミナー 2019」開催 ～「今後の障害者雇用のあり方検討」から見えてきた在宅就業～

東京都葛飾福祉工場

〒125-0042 東京都葛飾区金町 2-8-20

助成事業の概要

当工場が毎年開催している「在宅就労セミナー」は、在宅就労支援事業の普及活動の一助として定着しつつあり、今後は在宅就労を必要とする人や支援団体とのネットワーク化による横の拡がりを期待したいと考えている。そこで、今年度のセミナーでは、政府がまとめた「今後の障害者雇用促進制度の在り方に関する研究会報告書」において、「多様な希望や特性等に対応した働き方の選択肢の拡大」が挙げられ、その中で「在宅就業障害者支援制度」の見直しに触れていることを踏まえ、今後のこの制度の在り方の方向性とセミナー聴講者たちの思いを照らし合わせ、テーマについて深く探るものとした。

実施日 2019年6月12日(水)

13:00～16:30

セミナータイトル 「障害者雇用のあり方検討」から見えてきた今後在宅就業

参加者 在宅就労者、これから在宅就労を希望する人、企業関係者等 計30名

事業の成果

東京コロニーがこれまで取り組んで来た「ITを活用した重度障害者の職能開発」の結果たどり着いた現状や、今後の方針と課題、そしてWeb制作者にとっては受講必須の内容が盛り込まれていた。セッション等は大きく次の3つの内容に分かれている。

セッション1「在宅就労グループ es-team(エス・チーム)活動報告と、在宅就業障害者支援制度等の諸課題」では、在宅就労支援事業の歴史を年表で説明し、在宅就労グループ「es-team」の概要、雇成型と自営型メンバーの就労形態の比較、組織体制の紹介がまずあった。前年度の実績を分かりやすい表にまとめ、「es-team」の大きなトピックスを4つほど紹介。それらを踏まえて2019年度の課題点の説明がなされた。

セッション2「レスポンス Web デザインと Web ユニバーサルデザイン」(長時間実施のため前後半に分かれて実施)では、社会福祉法人東京コロニー職能開発室の受川隆之氏を講師に招き、Web制作業務を行う者にとっては受講必須の内容であった。内容はそれぞれの持つデザイン概念、スキルや知識を高める講座、それぞれのデザインの持つ課題点など基本的認識の共有に始まり、具体的な事例の紹介などにも言及、Web制作業務に従事する者のみならず有用なテーマ及び講義であり、1日のみの講義であったとはいえ受講者がWeb制作の最新の情報を知りきっかけともなるセミナーであった。

「全体を通しての質疑応答」では、在宅就業障害者支援制度が実際にどのように活用されているのかといった質問があった。政府目標には届いていない諸々の状況(支援団体登録数、在宅就業障害者特例調整金等の実績等)について、ソースを交えて回答した。Web制作を行う在宅就労者からWebデザインの最新の動向について多数の質問があがった。

実績の報告や今後の方針などからも在宅就労の拡がりを感じることができ、重度の障害のある在宅就労者のみならず様々な事情から在宅での就労を望む人にとって有用な内容であった。

また、Web制作を行う者にとって、Web制作の最新の動向や技術、そしてデザインの基礎的な考え方を学べたのは非常に有意義なセミナーであったと言える。

■ 成果の広報、公表

成果報告として当事業所のWebサイトに掲載するほか、そのソースとなった情報等も可能な限り公開する。当事業所の広報媒体などにも掲載し、在宅就労という働き方の現状についてさらに関心が高まっていくよう取り組んでいく。

また、このセミナーの大きな特徴として、障害のある在宅就労者が自ら企画し、事前告知や当日の進行、収支計算等も行っていることあげられる。ほかにも、講師との折衝を重ねたり、成果を報告にまとめたりと、在宅就労の実践者として、自らの経験値を伝え、さらなる普及に貢献する機会としての側面も、このセミナー実施の大きな成果であるといえる。

■ 今後の展開

2015年度の研修実施4年度にわたり、この助成事業の活用によって当事業所の在宅就労における取組や実績の紹介、他団体の動向も含めた情報共有、実践的なテーマの設定など様々な取り組みを重ねてきた。

政府による働き方改革の動きの中で、障害者の就労の多様化が叫ばれる中、一貫した目標である「『働くカタチは、ひとつじゃない』の実現」に向けて、仕事を通じて得た経験値を広く紹介したり、さらには他団体とのネットワーク化などにも結び

付けていきたいと考える。

一方で、参加者層が固定化されつつあるという点も課題とし、新たな参加対象者の掘り起こしにも取り組んでいきたい。